

Kashiwanoha International Campus Town Initiative

# 柏の葉国際キャンパスタウン構想

# 2021

フォローアップ調査 2021【概要版】



# 構想の全体像

## ■背景と目的

人口減少や少子高齢化等の社会的課題への対応、ライフスタイルの多様化への対応など、新たな都市像の確立が求められている。鉄道沿線で大規模開発が進行する柏の葉地域は、我が国有数の大学や公的研究機関が立地しており、世界水準の先端モデル都市形成に向け、高いポテンシャルを持っている。本構想は、行政、大学、民間企業、市民・NPO等が連携・協働し、柏の葉のポテンシャルを最大限に生かした先端的で自立した都市づくりを実践するための構想として、2008年3月に策定された。

その後、2011年に課題解決モデルとしての「環境共生都市」「健康未来都市」「新産業創造都市」の3つのコンセプトを示し、2014年3月には構想の内容充実化を行った。さらに2019年には、「データ駆動型のスマートシティの実現」やSDGsの観点等を追加する形で改訂を行った。

## ■対象区域

本構想の対象区域は、主としてつくばエクスプレス沿線の土地区画整理事業区域を含む13km<sup>2</sup>（区域1）の区域である。ただし、緑地ネットワークの形成や周辺地域との交通アクセス等については、柏駅や利根運河、流山市も含めた43km<sup>2</sup>（区域2）も視野に入れた内容とする。

## ■構想の理念

### 公・民・学連携による国際学術研究都市・次世代環境都市

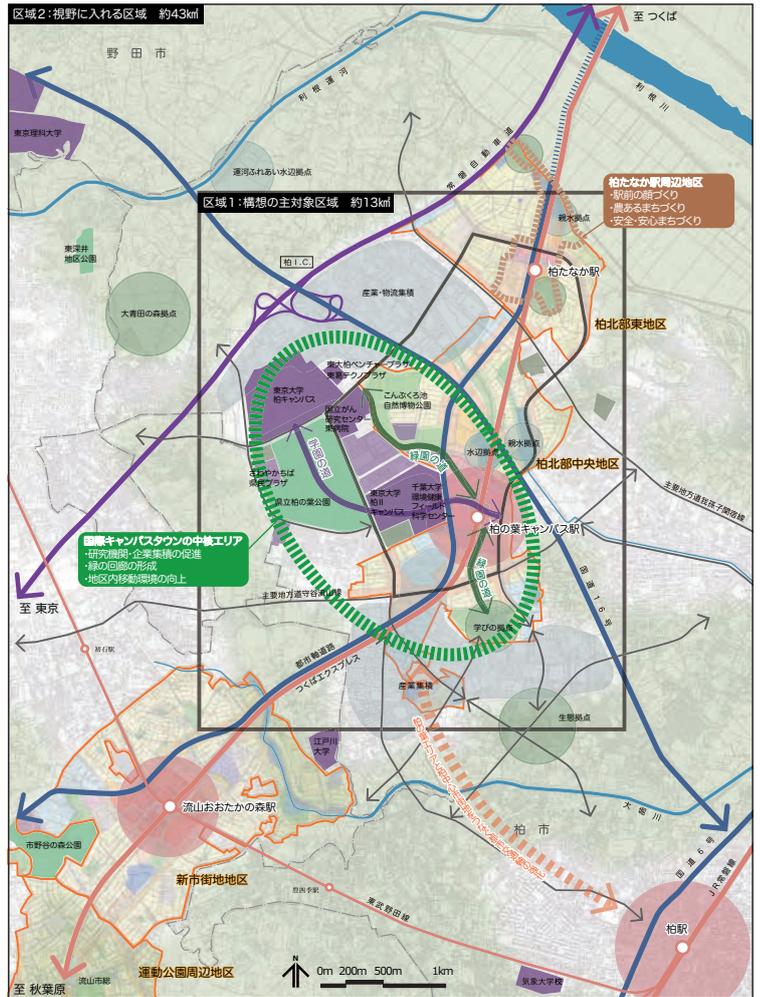
“大学とまちの融和”、すなわち、まち全体が大学のキャンパスのように緑豊かで質の高い空間となり、また、知的交流の場となることが、本構想の目指す都市の姿である。

その実現のために、地域社会に必要な公的サービスを担う「公」、地域の活力と魅力の向上を担う「民」、そして専門知識や技術を基に先進的な活動を担う「学」の各主体が、従来の枠組みを超えて連携し、「公・民・学」の連携による知的交流の中から、新たな知と産業、文化を創造する「国際学術研究都市」となり、これを通じて、優れた自然環境と共生し、健康で質の高い居住・就業環境が実現される、持続性・自律性の高い「次世代環境都市」となることを本構想の理念とし、8つの目標を掲げる。

## ■フォローアップの調査の位置づけと経過

本構想は、千葉県、柏市、東京大学、千葉大学の共同調査で作成したものであり、新たな地域ビジョンに基づく新しい政策テーマを先取りしていることから、現在の法制度や政策を超えた提案も含まれている。そのため、「公・民・学」が共同で設立・運営する柏の葉アーバンデザインセンター [UDCK] を事務局として、継続的にフォローアップのための委員会並びにテーマ別の部会を設置し、各団体の協力・連携のもと、実現に向けた更なる検討や関係機関との調整を行い、制度の改善や上位計画へのフィードバックを行いながら、本構想を推進することとしている。

柏の葉エリアをモデルに先行的・実験的施策を実施し、その成果・知見を柏市や千葉県全域、全国、全世界に展開していく。



構想の対象範囲



キャンパスから生まれる知と産業、文化 環境と健康、交流、創造のキャンパス

公・民・学連携による国際学術研究都市・次世代環境都市

8つの目標

目標1	環境と共生する田園都市づくり	豊かな自然と都市のみどりにふれあいながら、環境にやさしい暮らしを楽しめるまち
目標2	創造的な産業空間の醸成	創造的な交流にあふれ、職住が一体となった自立したまち
目標3	国際的な学術・教育・文化空間の形成	一生「学び」を楽しむことのできる、知的好奇心を刺激するまち
目標4	サステイナブルな移動交通システム	環境負荷が少なく、便利で快適な移動交通が、暮らしの質を高め活力を育むまち
目標5	健康を育む柏の葉スタイルの創出	あらゆる世代の健康をサポートし、地域の中で一生健康で暮らすことのできるまち
目標6	公・民・学連携によるエリアマネジメントの実施	支えあいによって地域の暮らしと活力を持続・向上させる自律的なまち
目標7	質の高い都市空間のデザイン	大学キャンパスのように豊かな緑のなかに賑わいが映える快適なまち
目標8	イノベーション・フィールド都市	常に最先端の取り組みを受け入れながら、変化しつづけるまち

# 2021 年度の主なトピック

## 1. 土地区画整理事業の計画変更・期間延伸

千葉県が施行主体となって進めている柏の葉キャンパス駅周辺の土地区画整理事業（柏北部中央地区一体型特定土地区画整理事業）において、事業計画変更が実施された。事業施行期間が6年延伸され、令和10年度までとなったほか、昨今の建設コストの上昇等を受けた資金計画（事業費）の増加（約128億円増）、土地活用状況や所有状況にあわせて街区の大型化が行われた。これにあわせて、柏市においても柏市北部地域総合整備事業の推進方針の見直しを行っている。キャンパスタウン構想においても、土地利用やアーバンデザイン戦略等の一部見直しを今後進める必要がある。

## 2. 柏の葉キャンパス周辺部の施設立地の進展

柏の葉キャンパスエリアにおいて、まちづくりの拠点となる施設の整備や計画が進展している。国立がん研究センター東病院に隣接する形で、ライフサイエンス系の研究施設「三井リンクラボ柏の葉」が開業し、病院と連携したホテル「三井ガーデンホテル柏の葉パークサイド」も竣工（2022年夏開業予定）。イノベーションキャンパス地区では、2つの商業街区（KOIL LINK GARAGE、KOIL 16GATE）が開業したほか、大型街区（140街区）の入札者も決定した。さらに、千葉大学のキャンパス内ではラグビースクールジャパンの開業に向けた関係者合意が整い協定が締結されている。相乗効果を高めるための土地利用の連携、駅を中心とするモビリティの確保、アーバンデザインの連続等を進める必要がある。

## 3. リアル×サイバーによるスマートシティの“実装”

データ活用によるプロジェクト群が進められるとともに、実空間でもイノベーションを生み出す施設や拠点が充実した。昨年度サービス開始している住民向けのデータ活用型健康サポート「スマートライフパス」のサービスが拡充されるとともに、まちの健康研究所「あ・し・た」の施設が拡張し対面型の交流機能・支援機能も充実した。駅周辺ではAIカメラの設置・試運転が開始し、まちの情報のデータ化が進みつつある。リビングラボ「みんなのまちづくりスタジオ」の継続、“まちゲー”“Code for Kashiwa”連携などICT系ベンチャーや市民との連携も行われ、徐々にではあるが市民参加型・市民共創型のデータ活用の取組みも進められている。

## 4. UDCK15周年 先端知×まちづくりへの挑戦

2021年11月に柏の葉アーバンデザインセンター（UDCK）が設立15周年を迎えた。15周年の記念イベントとして、今までのディレクターが集結したディレクターズトークの開催、市民向けツアーの実施、スマートシティフォーラムと連携したまちづくりの発信などが行われ、柏の葉のまちづくりの現在地を確認する機会となった。また、まちの発展、立地機関の拡充を受け、UDCKの体制の見直しを行い、昨年度設立された地元組織「柏の葉ふるさと協議会」が構成団体に、産総研柏センターが協力団体に加わった。柏の葉キャンパスから柏たなかまでを含めたTX沿線エリアにおいて大学の先端知とまちづくりをつなぐという、UDCKの原点の役割を再確認し、今後に向けた運営方針を明確にする必要がある。



▲柏北部中央地区 事業計画変更



▲KOIL 16 GATE 三井不動産による各種施設整備が進展



▲まちの健康研究所あ・し・たの拡張、AIカメラの設置など



▲UDCK15周年記念 ディレクターズトーク（2021/11/20）

# 目標 1 環境と共生する田園都市づくり

柏の葉では、2009年頃から駅周辺街区において、CO2見える化システムのマンションへの装備や省エネポイント導入など、生活レベルでの省エネ促進プロジェクトに取り組み、2014年度からは、駅周辺街区におけるエリアエネルギーマネジメント（AEMS）が稼働している。2019年度からスタートしているスマートシティプロジェクトでは「エネルギー」を柱の一つに位置付け、「暮らしの満足度を下げずに省CO2、省エネを実現する」をテーマに、AEMSの高度化に向けた検討や、IoTを活用した太陽光発電設備の保守管理実証の準備を進めてきた。

イノベーション・キャンパス地区では、2016年度に環境配慮方針を含むまちづくり計画が定められ、LEED-NDのプラチナ認証を取得。昨年度竣工したKOIL TERRACEや今年度竣工したKOIL 16 GATEでは主に水循環への配慮に係る設備が取り入れられた。

住民が増えるなか、フードロスや廃プラスチック削減等、社会的関心の高いテーマでの市民参加型の活動の開始・拡大を進める方針もっているが、コロナ禍でイベントの制約があるなか活動が進められていない。そのようななか、SDGs関連の映画上映をUDCKにて昨年度から開始しており、今年度も継続している。

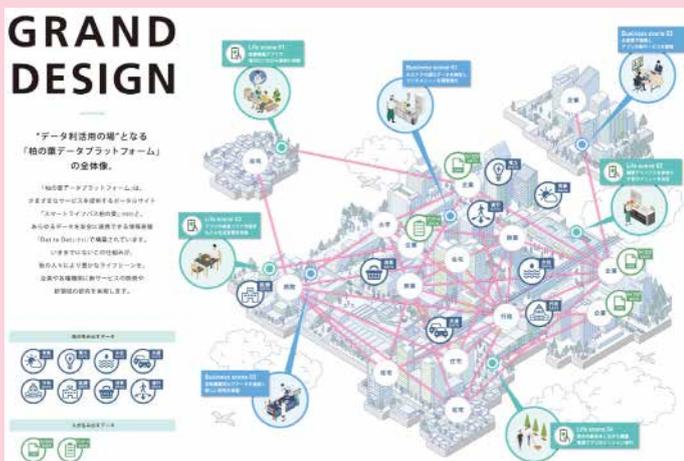
生態環境に関しては、こんぶくろ池自然博物公園の活動との連携を深めたほか、アクアテラスでは、VIVITAによる生態系調査を踏まえ参加型の環境保全活動を実施した。

## 1.AEMSの運用・再構築

三井不動産、日立製作所、日建設計総合研究所

2014年に竣工した柏の葉キャンパス駅前のゲートスクエアでは、街区間の電力融通を可能とするAEMSを導入し、継続稼働している。設備更新のタイミングを迎えていることから、昨年度より機能強化に向けた検討が進められている。当エリアにおける一層の省CO2に向けた運用改善のみならず、エネルギー関連技術開発にも資するシステムとして、必要な機能の整理が行われている。

脱炭素が世界的な大きな目標となるなか、柏の葉においても従来の目標を見直し、これに基づく戦略を描く必要がある。またスマートシティプロジェクトとして、柏の葉データプラットフォームの構築が進められており、AEMSで把握されるデータの連携も求められている。新たな柏の葉のまちづくりを支えるシステムとしての役割りを明確にし、更新を図っていくことが望まれる。



▲電力や気象データを含む柏の葉データプラットフォームの全体像イメージ

## 2.SDGs映画上映会 K-SCREEN | UDCK

「環境共生」分野での市民によるアクションの創出と促進や、より広いSDGsの考え方を生活やまちづくりに活かす対話のきっかけとなるようにSDGsソーシャルシネマ上映会とディスカッションの会を2021年3月から月一度定期的に開催している。各回SDGs17の目標のいずれかに関連した作品を上映。感染症対策のため緊急事態宣言・まん延防止等重点措置発出中はオンラインでの上映会開催となるが、解除中はUDCK施設での鑑賞もできるハイブリッドで実施した。

2021年度は概ね第3水曜日の夜に計11回開催し、約120名が参加した。

[上映作品一覧]

- 4月：難民キャンプで暮らしてみたら～ SALAM NEIGHBOR
- 5月：都市を耕す エディブルシティ
- 6月：パブリック・トラスト
- 7月：グリーン・ライ～エコの嘘～
- 8月：最後の楽園 コスタリカ ～オサ半島の守り人～
- 9月：気候戦士～クライメート・ウォリアーズ～
- 10月：ポバティー・インク～あなたの寄付の不都合な真実～
- 12月：ザ・ニュー・ブリード
- 1月：シード～生命の糧～
- 2月：できるーセ・ポシブル
- 3月：バベルの学校



▲K-SCREEN フライヤー

コロナ禍にあってもオンラインとリアルを併用できるイベントとして定期開催ができた点は良かった。今年度の課題としていた集客の安定化は、リピーターの増加などで一定の改善は見られるが、まだ十分とは言えない。毎回15-20名の参加者が参加し、対話できるような場に成長させる必要がある。

### 3. 自然空間の調査や保全に係る活動

■**こんぶくろ池自然博物公園** | NPO 法人こんぶくろ池自然の森  
NPO 法人こんぶくろ池自然の森を中心に、生態系の調査（調査班）並びに園路等利用環境の整備（里山班）が継続的に進められている。今年度は新規会員獲得と活動の周知を意識して取り組まれ、UDCK は展示・イベントの企画支援をおこなった。

5/12～5/16に、さわやかちば県民プラザで植物・昆虫・キノコの写真・標本及び保全活動の紹介するこんぶくろ池展を開催。11/14（日）にはNPOとUDCKが共催で『駅前から秋の森へ「森を歩き・落葉探し・葉っぱスタンプ」』を実施。35名（うち幼児と子どもが16名）が参加して駅前から森を散策し、ものづくりのワークショップを楽しんだ。

UDCKと共催した11月のイベントは集客も成功し、今までのイベントでは無かった若い世代のご家庭が多数参加し、新たな来園者の層として可能性を感じた。今後はイベント参加者がNPOの活動に興味を持ち、新しい担い手になれるように、こんぶくろ池を活用した多様なコンテンツを用意していく必要がある。



▲「森を歩き・落ち葉探し・葉っぱスタンプ」イベントチラシと当日風景

#### ■**アクアテラス ヒシの駆除活動** | UDCKTM ほか

2号調整池（アクアテラス）では、以前よりアクアテラス生物調査を行っているVIVITAよりヒシの繁茂について報告を受けていたところ、今年度も9月上旬に水面にヒシの繁茂を確認。参加型の刈り取り作業を計画し、10/10に実施。地域住民を含む約50名が参加し、合計65袋分のヒシを回収した。



▲「アクアテラスクリーン作戦！」イベントチラシと当日風景

### 今後の課題と展望

柏の葉スマートシティプロジェクトの「エネルギー」分野では、AEMSのシステム構成の再構築が中心となる。今後のエリア全体としての省CO2の推進とエリアとしてのBCP対応の面の両面から、ベストな方法を一から再度検討する方針となり、今年度引き続き検討が進められているが、なお方針は確定していない。国レベルにおいても、CO2排出量の削減、ひいてはゼロカーボンが具体的な目標として示されるなかで、各建物およびエリア全体の実施状況、推進状況を共有し、改善を図っていくためのシステムと推進体制の構築が急がれる。民間のみならず、公共や大学も連携し、柏の葉エリア全体としての目標や方針を定める必要がある。

LEED-ND認証を受けているイノベーションキャンパス地区では、開発に際して個別に環境配慮が検討されているところであるが、次年度以降も大型の開発が進む可能性があることから、引き続き協議・誘導が求められる。

省エネ・省CO2型・省資源型ライフスタイルの定着や周辺エリアへの展開、さらにはより広い意味での持続可能な暮らし方に係る市民レベルでの活動の広がりを生み出していくことも引き続き重要なテーマである。SDGs映画上映はひとつのきっかけとなるが集客面で課題がある。既存団体との連携促進のほか、イベント等を通じた参加の拡大・発信も考えていく必要がある。

自然環境保全に係る活動は、公共空間の管理ともつながる。エリア内に導入されつつあるセンサーの活用やデータを活かしたより効果的な管理など、スマートシティプロジェクトと連携した展開なども期待される。

#### 次年度以降の重点課題

- ▶ 環境エネルギーに係る新規ビジョン・目標の設定
- ▶ SDGsをきっかけに、市民や子供たちを対象とする持続可能なまちづくりに係る学び・議論の場づくり

## 目標 2 創造的な産業空間の醸成

地域のベンチャー・中小企業等へは KOIL（柏の葉オープンイノベーションラボ）を拠点に様々なビジネス支援メニューが提供されており、TX アントレプレナーパートナーズ（TEP）を中心とした技術系ベンチャー企業への重点的なハンズオン支援も継続されている。コロナ禍を受け、支援もオンライン中心に移行し、支障なく支援が行われた。AEA2021、柏の葉イノベーションフェスは昨年度引き続き、完全オンライン化しているが、世界各地と活発な交流が行われた。また、「柏の葉 IoT ビジネス共創ラボ」、「イノベーションフィールド柏の葉」を通じて、TEP ベンチャー企業、AEA ベンチャー企業のほか、市外の大手企業・中小企業等の柏の葉とのマッチングも活発化してきている。

企業・研究機関誘致に向け、昨年度開業したオフィスビル KOIL TERRACE に続き、今年度は国立がん研究センター東病院の隣接地に三井リンクラボ柏の葉 1 が完成し入居が進んでいる。ライフサイエンス分野、AI・IoT 分野の産業創出・企業誘致の環境が大幅に拡充され、企業立地のニーズも高まりを見せている。

### 1. TEP/KOIL におけるベンチャー支援

KOIL に拠点を置き、TX 沿線を中心に技術系スタートアップ支援を推進する TEP は、毎月のプレゼン会開催、支援者連絡会議のほか、個別要請に基づく各種企業支援プログラムの企画・運営を行った。TEP による「ビジネスプラン作成セミナー」は、2021 年度も 12 月～1 月の 4 日間開催され、好評のうちに終了した。本セミナーは、柏市の特定創業支援事業に認定されており、受講生は申請により柏市での法人設立費が半額免除される。

KOIL では、インキュベーションマネージャーがスタートアップ向けの相談対応を行っているが、今後、新産業創造に向けたスタートアップ集積に一層力を入れていく方針を確認し、TEP とも連携し、独自のスタートアップ向けアクセラレーションプログラムの企画が進められた。次年度、KOIL は TEP との連携を強化しつつ、柏の葉への良質なスタートアップ集積を加速させていく方針が持たれている。

TEP が毎年開催している J-TECH STARTUP SUMMIT は 2021 年度全面オンラインで開催され、過去最多となる 33 件の公募の中から「技術をビジネスのコアコンピタンスとした事業でグローバルな成長が期待される技術系スタートアップ」が 6 社認定された。昨年度に引き続き、TX 沿線の技術系スタートアップに対する支援が強化される結果となった。これらの企業へは、既に大手・中堅企業から関心が寄せられマッチングが行われているほか、KOIL 利用と TEP による支援提供が予定されている。



▲左：第 01 期ビジネスプラン作成セミナーの様子  
右：J-TECH STARTUP SUMMIT の様子

### 2. アジア・アントレプレナーシップ・アワード AEA2021

<開催概要>

- ・日程：2021/10/27～10/28
- ・開催地：（配信拠点）柏の葉カンファレンスセンター、（各国スタートアップ・一般参加）オンライン

2012 年より毎年開催している「アジア・アントレプレナーシップ・アワード（AEA）」は、前年度同様に全面オンラインでの開催となった。AEA2021 では、Healthcare、Work & Life style reform、Sustainability の 3 つのテーマに関連したソリューションを持つスタートアップ 30 社が集結。イベント開始前の約 1 か月半をかけてオンラインツールを駆使してメンタリングを実施。日本企業との連携に向けブラッシュアップがされたプレゼンにつながった。

アワードは事業の革新性、経済的・社会的影響力、事業の実行力、日本の大企業との連携の可能性を中心に審査され、地震対策用の制震ダンパーの技術開発を行うニュージーランドの Tectonus 社が優勝した。なお、入賞企業をはじめとする各企業の日本進出支援は継続して行われている。



▲AEA2021 の様子

### 3. 柏の葉イノベーションフェス

<開催概要>

- ・日程：2021/10/23～10/31
- ・開催地：（配信拠点）柏の葉カンファレンスセンター、（一般参加）オンライン

三年目となる「柏の葉イノベーションフェス」を、AEA 前後を含む 10/23～10/31 の一週間にわたって開催した。昨年度に引き続き、完全オンライン開催となった。「未来を変える、熱をつくれ。」をテーマに、オープニングトークにはリンダ・グラットン氏（ロンドンビジネススクール教授）を招へい。一週間わたって、6 つのクロストークを含む 8 つの特別プログラムを実施。最先端で活躍する知識人の講演や最新テクノロジーを身近に感じ、未来の生活を想像できる充実したコンテンツとなった。期間中 3,710 アクセスがあり、各プログラムともに多くの視聴が得られた。



▲柏の葉イノベーションフェスの告知サイト

## 4. 第5回メディカルデバイス・イノベーション in 柏の葉

<開催概要>

- ・日時：2021/10/26 16:00～19:00
- ・開催地：オンライン
- ・参加対象：医療機器開発に関わる・または関心の高い医療従事者、ベンチャー企業、製販企業、VC等

国立がん研究センター東病院、中小企業基盤整備機構関東本部、TEPの共催で、柏の葉キャンパスにおけるメディカルデバイス（医療機器）イノベーションのエコシステム構築を目指し「第5回メディカルデバイス・イノベーション in 柏の葉」を全面オンラインにて開催した。開催にあたっては、柏の葉イノベーションフェスの1コンテンツとしても連携し、より幅広い層に参加頂けるようにした。国立研究開発法人国立がん研究センター東病院 大腸外科長/手術機器開発室長の伊藤雅昭氏による講演のほか、シニフィアン株式会社 共同代表 朝倉祐介氏をゲスト講演に迎え、厳選された11社のスタートアップによるピッチが行われた。オンラインでの開催ではあったものの、イベント後には東病院のドクターや製販企業、VC等とのマッチングが行われ、有意義な機会となった。



▲第5回メディカルデバイス・イノベーション in 柏の葉告知パンナー

## 5. 企業・研究機関立地の促進

### ■三井リンクラボ柏の葉 | 三井不動産

ライフサイエンスの研究拠点として、三井不動産による「三井リンクラボ柏の葉1」が2021年11月に竣工した。国内有数のアカデミア・医療施設が拠点を置く立地特性を生かした「シーズ近接型」の施設であり、隣接する国立がん研究センター東病院と連携し、臨床試験の橋渡しなど、シーズ近接型ならではの産学医連携支援サービスを提供する。コミュニケーションラウンジ、カフェなど共用部を充実。イベント等も通じて企業や研究機関間のコラボレーションを促進する点も特長である。既に東京大学藤田誠教授らと企業の共同研究ラボが入居。さらに先端医療分野に取り組む企業の誘致が進められている。

国立がん研究センター東病院の敷地内には、三井ガーデンホテル 柏の葉パークサイドが22年3月に建物が竣工し、夏営業開始予定。患者・ご家族の方の向けのサービス他、創業等に活かす取組みを検討中である。



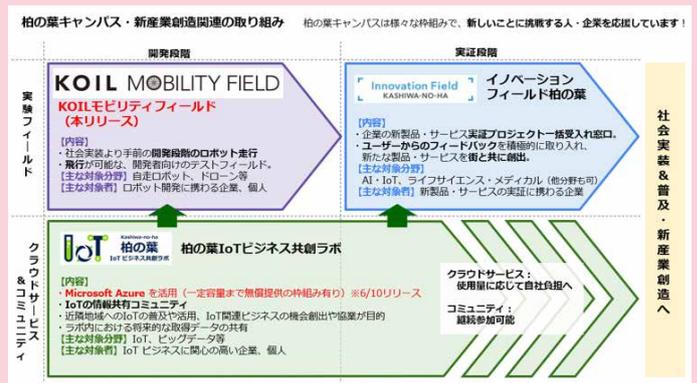
▲三井リンクラボ柏の葉1 外観(左)と内観(右)

### ■KOIL MOBILITY FIELD | 三井不動産

モビリティ開発を行う企業・大学向けに、開発途上のモビリティの検証を容易にできる環境提供を目的に、135街区の企業立地用地に、暫定施設として首都圏最大規模の開発検証施設 KOIL MOBILITY FIELD が整備された。「モビリティサーキット」(自動運転、走行中ワイヤレス給電、マイクロモビリティ開発)、「ドローンフィールド(水素燃料電池ドローン、有人ドローンなどの開発)」、「草刈りフィールド」(ロボット草刈機の開発)、「作業室(トレーラーハウス)」の4つの施設で構成。東京大学藤本博志研究室による走行中給電プロジェクトも行われたり、モビリティ系ベンチャー企業が KOIL TERRACE に入居するなど、関心が集まりつつある。



▲KOIL MOBILITY FIELD



▲KOIL MOBILITY FIELD を含む柏の葉の開発～実証支援環境の拡充

## 今後の課題と展望

TEPを中心とするネットワークングを通じて、ライフサイエンス・メディカル分野、AI・IoT分野ともに新産業創造に向けた連携が加速している。TX沿線でのエリア連携が活発化する一方で外部からの注目も高まっており、柏の葉を拠点とした産業創造環境が整いつつある。

三井不動産ではTEP/KOILを中心に、柏の葉へのスタートアップ集積促進に向けた姿勢を一段と明確化している。KOILTERRACE、三井リンクラボ柏の葉、KOIL MOBILITY FIELDなど三井不動産による産業支援・研究開発支援施設も充実。立地環境が整い、企業立地需要も高まっている。公・民・学の連携により、これに応える環境整備をさらに進める必要がある。

### 次年度以降の重点課題

- ▶研究開発・実証実験支援のさらなる強化
- ▶企業誘致活動の展開、需要に対応した立地環境・立地条件の整備

# 目標3 国際的な学術・教育・文化空間の形成

国際学術研究都市にふさわしいハード・ソフトの環境を整えるべく、「地域環境国際化戦略」に基づき、外国人が暮らしやすいまちの環境形成に向けた取り組みを進めている。今年度、柏の葉における長年の懸案であったインターナショナルスクール（ラグビースクールジャパン）の立地が決定したことは大きなトピックである。

子ども対象の体験・教育プログラムは民間が主体となるものを中心に多様化する一方で、かつてUDCKが主催してきた「未来こどもがっこう」や「ピノキオプロジェクト」は終了あるいは休止状態にある。誰もが気軽に参加できるものや中高生を対象にしたものなど、民間だけでは手薄になる部分について、小・中学校あるいは高校との連携を通じて充実していくことが望まれる。

柏の葉をフィールドとして最先端の専門的人材を育てる教育プログラムとしては、都市環境デザインスタジオのほか、東京大学、千葉大学によるプログラムが複数継続されており、オンラインを駆使して開催された。産業技術総合研究所を中心に、地域の学術研究機関、関係機関が連携した「柏の葉チャレンジフェス ヤッチャレ」も第二回が開催された。

## 1. ラグビースクールジャパン開校に向けた合意

千葉大学柏の葉キャンパスの敷地内に、英国の名門インターナショナルスクール「ラグビー日本校（Rugby School Japan）」を2023年9月に開校することについて関係者合意が整ったことが正式に発表された。2021/7/30に、ラグビースクールインターナショナル、千葉大学を含む4者で、開設に向けた連携・協力に係る基本合意書を締結。2022/1/31には、三井不動産も含む5者が基本協定書に調印し、開校に向けた具体的な協議・準備が進められている。次年度以降、校舎などの整備を進める計画である。

ラグビー校は1567年創立の英国の伝統的パブリックスクール「ザ・ナイン」の一角を占める名門校で、ラグビーが生まれた場所として知られる。海外進出は2017年開校のタイ・バンコク校に続いて2校目となる。千葉大学は学生や生徒、教職員の相互交流を進めるとともに、教育研究、社会貢献面で協力する予定である。

## 2. 子どもを対象とした学びのプログラム

コロナ禍において、ピノキオプロジェクトなど、従来行ってきたまち全体での子ども向けの学び・体験のプログラムは実施が見送られている。一方で、柏の葉小学校の教育活動の支援・連携として、「町はっけん(2年生)」のUDCKでの受け入れや、「SDGsわたしの提言(6年生)」のリーフレット展をUDCKとまちの健康研究所「あ・し・た」で開催するなど、小・中学校との連携は進んでいる。柏の葉小・中学校ではコミュニティスクールのモデル校にも指定されており、地域との連携に係る議論も進められている。



▲町はっけん(左) / SDGsわたしの提言リーフレット展示(右)

## 3. 都市環境デザインスタジオ | 東京大学・千葉大学他

2006年度以来、今年で16回目を数える都市環境デザインスタジオ。東京大学・千葉大学・東京理科大学・筑波大学が共同で実施する大学院生を対象とした都市デザイン演習である。今回のテーマは、「郊外の新しい街区デザイン」とし、イノベーションキャンパス地区を対象とした。「住む・働く・休む」といった一連の生活行為の境目がなくなってきているなかで、郊外での新しい暮らし方を考え、イノベーションを誘発するような提案、ポストコロナ/ウィズコロナを意識した提案を求めた。

10月に開講し、5つのグループが個性的な提案をまとめた。2022/1/22(土)には公開講評会をオンラインで開催。住民、事業者、行政からも参加いただき活発な講評と意見交換がなされた。



▲都市環境デザインスタジオ学生提案(抜粋)

## 4. GPSS-GLI サステナビリティ学実習 | 東京大学

東京大学大学院新領域創成科学研究科サステナビリティ学グローバルリーダー養成大学院プログラム(GPSS-GLI)の演習を、大学生8名がファシリテーターとなり実施。2021年11月から2022年1月まで、柏の葉の住民28名と共に「柏の葉らしさ」とは何かをテーマにワークショップを繰り返した。多様な参加者を3グループに分けクリティカルシンキング、デザイン思考をベースにしたデザインプロセスを経て、柏の葉の「特別な場所」や「その場所が持つ物語」を地図上に可視化した。演習は全て英語でおこなわれ、参加者の国籍や性別・年齢もさまざまであり、地域国際化、多様性という観点からも非常に価値が高い活動となった。



▲演習の実施風景(左) / 住民参加者の募集チラシ(右)

## 5. “柏の葉 wish tree” プロジェクト | 東京大学・UDCK 他

「柏の葉 wish tree」は、2019年度の都市環境デザインスタジオでの学生提案をきっかけとするプロジェクトで、まちへの気軽な参加を引き出すことを目的に、短時間で手軽な意見収集を行う仕組みの制作・実験企画である。

コロナ明けのまちへの「願い」を柏の葉型のシートに書き、ツリー型の構造物に掲示する形で実施した。参加者が構えることなく気軽に参加でき、まちづくりに役立つ情報も提供できるようなデザインを行った。2021年5月～11月にかけて、UDCK、まちの健康研究所あ・し・た、KOILの3箇所にツリーを設置し「願い」を募集。最終的には717件の「願い」が集まった。

2022/2/8～2/26には、「柏の葉 Wish tree 700人の願い展」をUDCKで開催。集まった「願い」のトップ10、そして集まった「願い」の葉っぱで作ったインスタレーション「wish roof」等を展示した。



▲ UDCK内に設置された柏の葉 wish tree

## 6. 多様な農福連携に貢献できる人材育成プログラム | 千葉大学

千葉大学環境健康フィールド科学センターが昨年度開設した「多様な農福連携に貢献できる人材育成プログラム」が引き続き実施された。

「障害者支援」×「高齢者支援」×「都市農業支援」×「QOL向上」をテーマに多様な農福連携プログラムを企画・運営するための知識・実践能力を持つ人材を育成することを目的とする履修プログラムであり、今年度は入門コース（第3期 9月～1月）、応用コース（第1期 3月～7月）を実施。ノウフクマルシェを11/3に開催し、県内9事業所からのノウフク産品を販売した。

次年度新たに、「園芸コース」を開始。4/8-2/3の約1年間の園芸中心のプログラムで、大学の学生向け農業実習を活用したプログラムで通常の学生と一緒に受講する授業が中心となる。



▲ 応用コースの様子

## 7. 柏の葉チャレンジフェス ヤッチャレ 2021

柏の葉のまちにチャレンジ精神を育むべく、住民自らのチャレンジを後押しするプロジェクト。二年目となる今年度は「タイムマシン・チャレンジ」をテーマとし、「三日坊主を克服する社会心理学による目標と計画の作り方」ワークショップを3回実施。また、柏の葉小・中学校と柏の葉高校の協力を得てアンケート調査を実施し、柏の葉の子供たちの夢・目標や、実現に向けて取り組むうえでの課題に係る声を集めた。10/30には「ヤッチャレ会議 2021」を開催し、柏の葉高校生3人が参加した対話形式の教室をオンライン配信した。小中高とのつながりを足掛かりに、参加を広げていく必要がある。

## 8. 柏の葉街まるごとオープンキャンパス 2021 | UDCK 他

・実施期間：2021/10/1（金）～11/30（火）  
・登録施設数：22、登録イベント数：63（オンライン7/リアル56）

柏の葉のまちを一つのキャンパスに見立て、10～11月の期間で開催されるイベント・フォーラムなどを1つのリーフレット上で紹介するUDCKの広報連携である。昨年度はコロナ禍で休止したが、今年度再開した。オンライン併用のイベントが多いことを考慮し、リーフレットは作成せず、特設 website を作成して開催した。多くのイベントを発信できたが、リーフレットの作成をしなかったこともあり、告知・集客面では課題が残った。



▲街まるごとオープンキャンパス 特設サイト

### 今後の課題と展望

東京大学 GPSS-GLI 演習は、留学生を起点に国際交流を促すひとつのきっかけになっている。市民レベルでの英語学習や国際交流も徐々に広がりを見せているが、日常生活環境として、各種施設やサービスの英語対応、国籍を問わずに参加し楽しめる文化・交流の場づくりなど、取り組むべきことはなお多い。ラグビースクールジャパンの立地は、まちの国際化を一段上に引き上げる大きなきっかけとなりうる。開校スケジュールも見据えながら、まち全体の国際化をさらに進める必要がある。

ピノキオプロジェクトなど、こどもを対象に独自に大きいイベントを組むことが資金面で難しくなっている一方、小・中学校や高校との連携は徐々に深まっている。高度人材育成から子どもたちのベーシックな学びの支援まで、まち全体を学びのフィールドとしていくという本構想の趣旨に改めて立ち返り、大人を対象とするものも含めてプログラムを再編し、持続的で効果的なものとしていく必要がある。

#### 次年度以降の重点課題

▶ まち全体を学びと体験のフィールドとして、大学・研究機関を最大限に活かした市民向けの学び・体験プログラムの連携、発信力の強化（学生活動との連携、多様な学びの場の提供等）

# 目標4 サステイナブルな移動交通システム

かつて先導的な交通システムの実証実験として実施した「マルチ交通シェアリング」「かしわスマートサイクル」は、事業化の目的がたたず終了するなど、交通系の取り組みは収束気味であったが、2019年度策定したスマートシティ実行計画では「行きたい場所に快適に移動できる」をテーマにモビリティを柱の一つに位置づけ、次世代型の交通サービス導入に向けた動きを改めて活発化している。その一環として2019年11月から営業運転実証実験として運行を開始した自動運転バスは、今年度も設備を強化しながら運行を継続している。全国各地で実証実験が進む電動キックボードについても昨年度から継続して柏の葉での導入に向けた実証を行った。柏市では2021年3月に「第二次総合交通計画」が策定されたところであるが、柏の葉エリアにおいても様々なモビリティ関連のプロジェクトを束ねた交通の将来像を指し示すべく、今年度はアンケートも行いながら、「柏の葉交通戦略」の改定に向けた検討が進められた。

## 1. 自動運転バスの営業運転実証実験 | 柏 ITS 推進協議会他

2019年11月より、東京大学シャトルバスに自動運転車両を導入し、一日4往復運行（うち1往復は視察便）、営業運行実証実験を継続している。レベル4（特定条件下での完全自動化）実現に向け、今年度、コイト電工・IHI・日本信号の参画によりインフラ側のセンサー類（信号機連携、路駐等検知センサー）の設置が進められた。また、経済産業省の補助事業に東京大学を中心とするグループが採択され、2025年の混在空間におけるレベル4実装を目標に、インフラ協調型の自動運転システムの構築に向けた研究・実証が加速している（通称Cool4）。

次年度以降の運行方法（ルート、体制）については、完全無人化に向けた技術実証の側面と、持続可能なバス運行サービスの側面の両面から、Cool4のグループと地域の交通・まちづくり関係者グループで密に連絡を取り合い検討・調整を進めている。



### 混在空間でレベル4を展開するためのインフラ協調や車車間・歩車間の連携などの取組

将来像：

- ・2025年頃までに協調型システムにより、様々な地域の混在交通下において、レベル4自動運転サービスを展開。



将来イメージ

主な検討課題

- 協調型システムの評価
- 地図情報やデータ連携スキームの検討
- 協調型の事業モデル検討
- 協調型システムの国際動向分析・戦略作成
- モデル地域での技術、サービス実証
- テストベッドを活用した検証、アップデート
- 協調型システムの国際協調、標準化提案

(イメージ) インフラからの走行支援

▲自動運転バス車両（上）/経産省補助事業のテーマ（一部）（下）  
出典：経済産業省ウェブサイト

## 2. 電動キックボードの公道走行実証 | EXx、三井不動産

ラストワンマイルの交通手段として海外で急速に成長している電動キックボードのシェアリングサービスを、日本の法整備に照らし合わせた形で導入できないか検討を進めるために、昨年度に引き続き、経済産業省の特例制度を用いた公道走行実証実験を5/31～12/30まで行った。

利用を促進するためにららぽーとやT-SITEなどの協力を得て4か所のポートに20台のキックボードを配置し、8月から有料化して事業性の検証を行った。さらに利用状況をみながら、9月からは柏市の協力を得て近隣の公園等にもポートを5か所追加した。

有料にすることで利用者は大幅に減ることとなったが、ポート数を増やすことで一定の効果も見られ、ららぽーとやT-SITEでは地域内を周遊する観光利用のケースも見られた。今回の実証実験の検証を踏まえて、柏市や東京大学、がんセンター等周辺施設との連携なども検討し、柏の葉ならではのラストワンマイルモビリティのあり方を深化させたい。



▲電動キックボードのポート（公園（左）とららぽーと前（右））

## 3. 柏の葉の交通に関わるアンケート調査

「柏の葉交通戦略」の策定に向け、柏の葉における移動の実態やニーズを探るため、産業技術総合研究所と連携し、柏の葉ふるさと協議会等の協力を得て住民アンケートを実施した（1/14-1/31）。1300件以上の回答を得て、地域内の移動に係る状況やニーズについて貴重な情報を収集できた。

柏の葉公園の南側の戸建て住宅地の住民と柏の葉キャンパス駅周辺のマンション住民で比較分析をした結果、戸建て住宅住民は自動車への依存度が高く鉄道利用が少ない、また柏の葉公園を頻りに利用するものの、柏の葉キャンパス駅周辺の利用頻度はさほど高くなく、柏駅と柏の葉キャンパス駅の利用は同程度であることなどがわかった。一方でマンション住民は、柏の葉のエリア内は徒歩圏内での移動が多く、ららぽーとやT-SITEは頻りに利用する一方、柏の葉公園の利用は多くないこと、柏駅の利用も少ないことなど、明確な違いが明らかになった。

全体として、地域内循環バスや即時宅配サービスへのニーズが非常に高いこと、自動車保有者の4割近くが、カーシェア等への切替で自動車を手放す可能性があると回答しており、今後の新たなモビリティ確保に向けた貴重な示唆が得られた。

- 調査対象 柏の葉駅周辺マンション/柏の葉1～3丁目戸建て住宅
- 実施主体 UDC K/産総研人間拡張研究センター/東京大学（協力：柏の葉地域ふるさと協議会/柏の葉キャンパス駅前まちづくり協議会）
- 実施期間 2022/1/14～1/31
- 配布 対象地域住戸への全戸用紙配布（4010部）
- 回収実績 約1300件 ①フォーム回答 693件 ②用紙回答 614件



# 目標5 健康を育む柏の葉スタイルの創出

「健康長寿都市」づくりに向けた中核施設である、まちの健康研究所「あ・し・た」は、「あるく・しゃべる（社会参加）・たべる」に関わる情報提供や、さまざまなイベント・講座等を通して、参加型健康づくりを推進している。今年度スペースを大幅に拡大し、スマートシティプロジェクトを支えるリアルな健康づくり拠点として活動を強化している。柏の葉スマートシティプロジェクトでは、「ウェルネス」を一つの柱としており、「日常生活の中で健康を維持できる」をテーマに、昨年度個人の健康データを活かしたサービスが開始されており、今年度コンテンツの充実化が図られた。

「健康まちづくり部会」では、「ウォーカブルデザインガイドライン」の普及啓発と実装に向け、ウォーキングイベントやフォーラム等を実施してきた。今年度はオリジナルアプリ「まちゲー」を活用したウォークラリーイベントを行い好評を得た。

農や食に係るプロジェクトとしては、コロナ禍ではあったものの、柏たなかでの「農あるまちづくり」に関わるプログラムが多く市民が参加して実施された。柏の葉キャンパスにおいてもプラザでのマーケットが定期開催されている。

## 1. まちの健康研究所あ・し・た | 三井不動産ほか

三井不動産が運営する地域の健康づくり拠点である。2022年2月末現在の会員は約3,200名。会員は、体組成測定時に直近6回分のデータを受け取ることで筋肉量などの推移を確認でき、あ・し・たのウェブサイトでもデータの閲覧が可能。定番イベントの多くは感染防止のため実施を見合わせているが、ポールウォーキング体験教室は通常どおり開催しており、耕作放棄地を活用した「野菜づくりクラブ」は、地域のフードバンクへの寄付や近隣保育園との連携など新たな取り組みを開始した。今年度も東京大学の「脳機能と食生活の調査」や「ゲノム研究」に協力し、会員約320名が参加した。2021年8月には、従来の3倍の面積に拡張してリニューアルオープンし、企業や大学のブースが新設された。認知症のリスク判定や、プライバシーが守られた状態で医療相談ができるスマートライフボックスの実証実験が行われ、EMS治療器の体験コーナーも設けられ、来場者にとっても新たな体験の機会となった。

11月には新設のイベントスペースで、高齢者だけでなく子育て世代も含むすべての世代を対象に、リニューアル記念イベントを展開。参画企業の花王の歯磨きや掃除・洗濯など生活に密着したイベントなど盛況を得た。2月～3月にかけて、会員4名の作品展を試行し好評であったことから、会員の作品展や活動の成果を発表する場としても積極的に活用されるよう、ルール作りを行う予定である。



▲あ・し・たでのイベントの様子

## 2. スマートライフパスと関連サービス

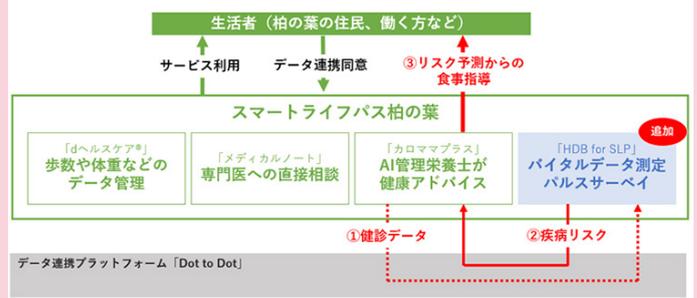
2020年11月にサービスの提供を開始したスマートライフパスにNTTデータが運営する「Health data Bank（以下「HDB」）」が加わった。HDBは「法人の健康経営を支援」と「個人の長年にわたる健康管理を支援」がセットになったクラウド型健康管理サービスで、疾病リスク予測AI機能を持つ。

本サービスが持つ「疾病リスク予測AI機能」を既存のAI食事管理アプリ「カロママプラス」に連携することで、疾病リスクに応じたより精度の高い健康アドバイスの提供を実現した。データの連携はサービス利用者本人の同意に基づき、独自のデータ連携プラットフォーム「Dot to Dot」を活用している。

2022年度も低糖質高たんぱくの食事を提供するサービスや運動促進のためのアプリとの連携、スリープテック企業との実証等様々な取組が予定されている。



○スマートライフパス柏の葉のデータ連携とは



▲ Health data Bankとカロママプラスの連携による疾病リスク予測（上）  
スマートライフパスのデータ連携概念図（下）

国立がん研究センター東病院と三井不動産が2022年7月開業予定で病院併設型ホテルを開発中である。「HDB」と「カロママプラス」は新たな機能を開発し、ここに宿泊する患者向けの健康管理サービスとしても活用する予定である。

スマートライフパスでは利用者からのアンケートを取りそのデータを本人同意のもと分析・活用することができる。本機能を活用し三井不動産・国立がん研究センター東病院共同で内視鏡検診の受診率調査をし、HDBで分析。検診受診に適切な情報提供などの方法を見つけ出すことで、がんの早期発見・早期治療につなげ、まちとしての健康長寿実現を目指す。

## 3. 柏たなか農あるまちづくり | 農あるまちづくり実行委員会

「農あるまちづくり実行委員会」を中心に、農業体験農園の運営支援や朝市・収穫祭等のイベントを実施。柏たなかエリアは人口が急増し、駅前の開発も進展しつつある。今後の「農あるまちづくり」の推進体制や方針についても検討・協議を行っており、次年度からはUDCKが事務局を担う予定である。

### ■体験農園

2021年度は最終的に3園75区画が利用された。人口増をうけニーズは高まっており、2022年度は区画を増やし全89区画を設置。継続希望者60区画、新規27区画の応募があり、87区画で稼働する

予定である。

#### ■イベント・サークル活動

コロナ感染対策を行いながら、環境コンビニはサークル活動等に利用されている。朝市・収穫祭等のイベントも規模を一部縮小したものの開催できた。イベント時等における駐車場の問題が顕在化している。

- ・朝市 (7/10 来場者 302名)
- ・夕涼み会 (7/31 来場者 540名)
- ・こども収穫体験 (10/23 来場者 44 家族)
- ・収穫祭 (11/27 来場者約 790名)



▲こども収穫体験の様子

## 4. 地元農産物マルシェ「FULL-SATO マーケット 柏の葉」

<実施概要>

- ・開催日：毎週火曜・水曜・木曜・土曜・日曜
- ・場所：柏の葉ゲートスクエアプラザ
- ・運営実施：GENOWORTH / 協力：UDCK TM、UDCK

昨年度より柏の葉ゲートスクエアプラザにて地元農産物マルシェ「柏の葉 FULL SATO MARKET」を週5日で定期開催している。平日昼は主にキッチンカーが出店、土日は野菜や加工品を扱う店舗が出店している。定期的に環境・SDGsを学んでいる大学生グループと協働して「あおぞらマルシェ」を開催したり、保育施設チコロとコラボしたり、柏市農政課との連携企画を検討したりと、今年度は広がりを見せている。継続している出店者には固定客も付きはじめている。周辺の店舗との兼ね合いを今後も取りながら、新規出店や他のイベントや取り組みなどとの協働を進め、マンネリを防ぎながら規模を拡大していくことが必要である。

来年度からはゲートスクエアプラザの利用有料化に伴い、運営方法や出店料金の見直しなどを適宜行いながら継続することになる。運営・企画のサポートをUDCK、UDCKタウンマネジメントで引き続き行っていく。



▲FULL-SATO マーケット 柏の葉の様子

## 5. ウォークラリーイベント「ロボクサを探せ」

「健康まちづくり部会」で2008年に制定した「柏の葉ウォークデザインガイドライン」の一環で、ゲーム的要素を入れた実証実験としてのウォークラリーイベントを「柏の葉まちまるごとオープンキャンパス2021」の期間10/1～11/30で開催した。

柏の葉エリアの5箇所に設置されたウォークサインの二次元コードを読むスタンプラリーと、オリジナルアプリ「まちゲー」を通じた歩数計測を組み合わせた、デジタルとアナログを横断したまちづくりの仕掛けである。個人戦と団体戦を設け、団体戦では参加者全員の歩数が一定量に達すると街なかに植樹を行うこととした。歩けば歩くほど、歩く環境が良好になるというねらいである。

10/29にはイベントの概要と楽しみ方を紹介するオンライン座談会を開催。「まちゲー」アプリの利用者数は282人、歩数の総計は387万歩となった。(2022/3/23 現在)



▲ウォークラリーイベント「ロボクサを探せ」告知バナー

## 今後の課題と展望

あ・し・たは地域住民向けの健康づくりや子育て支援の拠点として活動を広げるとともに、会員を対象にした研究や実証実験も多く行われるようになってきている。このリアルな拠点を活かしつつ、データ活用型サービスをさらに増やしていくことが望まれる。

食のイベントは新型コロナウイルスの影響で延期が続いているが、健康テーマとも関連付けながら、柏の「食」のプロモーションを行っていく予定である。既に定着しつつある「FULL-SATO マーケット」や柏たなか「農あるまちづくり」とも連携し、改めて「農・食・健康」をつなぐプロジェクトを推進していく。

今年度実施したアプリを活用したウォークラリーは好評であった。スマートシティプロジェクトとして推進される「パブリックスペース」(人流等のセンシングデータ)と「ウェルネス」(個人の健康データ)に係る取り組みや関連データの連携等も含め、楽しみながらデータをためられる仕掛けを拡充していくことが望まれる。

### 次年度以降の重点課題

- ▶「スマートライフパス 柏の葉」×「あ・し・た」を軸にした、柏の葉の健康ライフスタイルサポートの構築・発信
- ▶柏たなか・柏の葉キャンパスが連携した「農・食・健康」をつなぐプロジェクトの推進

# 目標6 公・民・学連携によるエリアマネジメントの実施

エリアマネジメント事業を担う法人として、2019年1月に設立された「一般社団法人UDCKタウンマネジメント（UDCKTM）」が柏市と協定を結び、柏の葉キャンパス駅周辺の歩道・植栽と柏の葉アクアテラスの管理運営を担っている。キャンパス駅周辺では、市民団体「かし＊はな」と「花山会」が緑の維持管理を行っているほか、柏の葉キャンパス駅前まちづくり協議会での清掃活動も継続している。今年度も新型コロナの影響はあったが徐々にイベントも再開されつつある。人口が増え、活動が増えるなかでトラブル対応などの強化も求められるうえ、公共空間の一部老朽化・破損などもみられ、施設の持続的な維持管理も重要なテーマとなっている。また、スマートシティプロジェクトの一貫として、AIカメラが路上に設置され試行運用を開始した。

地元住民や市民団体との参画・連携については、UDCKでのプロジェクト連携会議等の機会を通じて、情報共有や交流を行っているが、対面での交流に制約があるなか試行錯誤が続いている。地域住民による組織である「柏の葉地域ふるさと協議会」「柏の葉キャンパス駅前まちづくり協議会」や、数ある地域団体、市民有志の活動の支援を効果的に行っていく必要がある。

## 1. 公共空間の管理運営 | UDCKTM

### ■柏の葉キャンパス駅西口

毎年夏季の課題であるムクドリ対策としては、昨年同様に交通島内にムクドリを集める戦略的剪定（6月）を実施し、騒音・糞害防止に努めた。高質化整備から7年が経過し、施設の老朽化が目立つようになってきたことを受け、ファニチャー類や舗装タイルなど全体的に点検を実施した（10/6）。駅周辺で増加しつつあった放置自転車問題に対して、柏市・柏の葉キャンパス駅前まちづくり協議会・三井不動産と協力して、歩道では駐輪禁止ポールの設置や放置自転車の撤去、私有地内では店舗用テーブル等の設置などを行い、放置自転車を削減した。

### ■柏の葉アクアテラス

ドラマロケ活用が1件あったほか、スポーツ健康系イベント「カラダdays」を6月（6/26・27）と11月（11/20・21）の2回開催した。その他T-SITE主催イベントが2件開催された（7/23-25「手持ち花火」、11/20-21 Aqua Terrace Music Fes）。音楽イベントでは、近隣からの音量に対する意見が数多くあり、適切な音量と利用時の許可監視運用について考え方を整理した。

竣工から5年が経過し、アクアテラスも一部施設の補修が必要となっている。土地利用が進みつつあるイノベーションキャンパスエリアの中心として、きれいな状態を維持するための工事（漏水防止対策や損傷箇所の補修）を来期に実施予定である。



▲ Aqua Terrace Music Fes

### ■柏の葉ゲートスクエア「プラザ」の運用見直し

柏の葉キャンパス駅西口の広場空間「プラザ」はFULL-SATOマーケット（キッチンカー出店）が定期開催されるなど駅前の賑わいの中心となりつつある。もともと当広場は三井不動産の所有地・管理地であり、日常的に地域開放するために、地区計画で地区施設に位置づけられ、固定資産税等が非課税とされていた。そのため、利活用は「公共公益的なもの」に限られ、利用者から利用料を徴収することも認められていなかった。よりイベント活用のしやすい場所にしていくため、今期柏市と協議を行い、来期からはプラザに係る税の扱いを変更し、通常の課税対象とする代わりに利用料の徴収を行うことで合意。管理主体をUDCKタウンマネジメントへ移管することにより、利活用をさらに促進していく方針である。

## 2. AIカメラの設置 | UDCKTM

まちの安心・安全性向上のため、柏の葉キャンパス駅周辺の既存の街灯にAIカメラを設置する協議を昨年度より行ってきた。今年度は計29台のAIカメラの設置工事を行い、2021年9月より人流の計測やアクアテラスエリア閉鎖時の侵入検知を開始した。

AIカメラの稼働に向けては、周辺住民へのチラシ配布や住民説明会に加え、多言語表記の説明を掲示。取り組みに関するガイドラインも公開している。AIカメラの設置管理者であるUDCKTMはデータ倫理審査会を設置し、データの取得や管理・活用に係る慎重な審査体制を整えている。プライバシーに係る問題については、映像はリアルタイムで解析後に即時破棄し、時間、場所、人数、推定性別・年齢等の個人を特定できない情報のみを保管することで配慮した。次年度は駅周辺エリアの異常行動（危険行為やうづくり等）検知サービスの開始や、人流計測データをデータ連携プラットフォーム「Dot to Dot」を通して街づくりに参加する事業者へ連携することを予定している。

また住民参加型のアイディアソン活動（みんなのまちづくりスタジオ）を通じ、住民視点でのAIカメラの新たな活用方法を検討すべく準備も進められている。

AIカメラが異常な行動を検知すると通知が届き、警備員が現場へ。問題の早期発見と迅速な対応を目指します。

【見守り・異常行動検知】【柏の葉キャンパス駅西口・東口周辺エリア】

- うづくり・卒倒の検知  
路上でうづくまっていたり、急に倒れた人を検知します。
- 危険行動の検知  
人へのつかみかきや暴力的危険な動きを検知します。
- 凶器所持の検知  
ナイフや包丁などの凶器を所持している人を検知します。

※2021年7月（予定）～2022年3月以降は試験期間としてAIによる異常行動検知の検知を行います。試験期間中は平日の日中帯における限定的な検知試験を行うのみで、警備員は駆けつけ等は行わずです。試験期間の結果を見て判断し、2022年4月より運用を開始する予定です。

【危険時の立ち入り検知】【アクアテラスエリア】

- 雨天による増水時の立ち入り
- 夜間立ち入り禁止時間の侵入

※2021年7月のカメラ設置後より運用を開始する予定です。カメラに接続するアクアテラス場内の歩道が検知範囲となります。

人流データを街づくりに活用します。

【街中の人の流れを分析】

- イベント企画
- 街づくり検討

※2021年7月頃から人流計測より運用を開始する予定です。

▲ AIカメラによるサービス、データ活用の概要

### 3. NECグリーンロケッツ東葛 ホームタウン活動

今期よりラグビーのリーグ改編が行われ、プロ化に向けて各チームがホームタウン活動を開始。我孫子に本拠を置いていたNECグリーンロケッツが柏市を含む東葛地域をホームタウンとし、柏の葉総合競技場をホームグラウンドとすることとなった。2021年11月にNECグリーンロケッツ東葛と三井不動産がスポンサー契約を締結。UDCKや柏市とも連携し、まちをあげたホームタウン活動を開始した。Kサロン(12/15)にチームOBの木下氏をゲストに招聘。12/18には、プレシーズンマッチにあわせてかけだし横丁を利用すると、ユニフォーム・試合チケットが当たる抽選会を実施した。年明け1/5からは、開幕戦(1/8)に向け、駅前フラッグ・横断幕・バスラッピング(バスマスク)など、まちの装飾を実施した。2月からはファンペーパーの制作・配布を開始。3月からは試合後に柏の葉の街を堪能してもらうべく、チケット半券による商業店舗販促を行う「アフター街ファンクション」を実施している。



▲Kサロン(2021/12/15)の様子(左) / ファンペーパー "Three cheers!" (右)

### 4. ふるさと協議会とまちづくり協議会

#### ■柏の葉地域ふるさと協議会

「柏の葉地域ふるさと協議会」は活動二年目となり、防災セミナー(12/4)、近隣小中学校校長を招いた地域懇談会(3/5)ミニ講演会「柏の葉の交通環境」(3/26)などのほか、打ち上げ花火「希望の花火」をクリスマスイブ(12/24)に初開催した。

#### ■柏の葉キャンパス駅前まちづくり協議会

駅前清掃は感染状況をみながらの実施となったが、12/25の年末大掃除には20名以上が参加。駅周辺花壇は「かしはな」「花山会」による維持管理を継続し、保育施設との連携なども行われている。防災・安全部会では、住民提案をきっかけにしたイベント「柏の葉AED講習会～街全体が1つの救命チームになる～」を11/3に実施。柏市消防局の講習とUDCK企画のワークショップを組み合わせた。今期は情報発信を強化すべく、まちづくり協議会のホームページを大幅リニューアルしたほか、まち協だよりを10月に発行した。駅周辺では自転車の違法駐輪や歩道走行、喫煙などの課題も提起されており、まち協の場を通じた対応・協議が行われている。



▲まちづくり協議会の新ウェブサイト(左) / AEDイベント(右)

### 5. 市民団体・地元事業者による活動支援

毎月最終水曜日にUDCKプロジェクト連携会議を開催し、イベント実施者、施設管理者などとイベント報告と次月度以降の予定を共有する場を設けている。そのほかにも、交流会「Kサロン」の開催、ポータルサイト「柏の葉ナビ」やSNSなど各種メディアを使った情報発信・連携を行っている。

#### ■Kサロン

Kサロンは住民同士の交流やまちの話題を広く知ってもらうために、毎月最終水曜日の夜に開催しているまちの交流の場である。コロナ禍での制約から、今年度は12月に1度だけの開催に留まった。

#### ■柏の葉街まるごとハロウィン2021

昨年度、保育施設「チコル」主催のハロウィン企画に協力。今年度は実行委員会を組織し、街なかへの展開を図った。感染症対策を徹底しつつも、イベントの規模拡大を目指した。10/30(土)10/31(日)の二日間、柏の葉キャンパス駅周辺にて、仮装キャンディスポットラリー、仮装ファッションショー、フォトスポットの設置などを実施。参加者側、運営者側ともに大きな問題もなく実施できた。キャンディスポットは完全予約制とし、二日間で合計245名(子供の数)が参加。キャンディスポット数が昨年9件から4件増えて13件となり、エリアも広がった。



▲街まるごとハロウィン2021の様子

### 今後の課題と展望

コロナ禍を経て、公共空間の価値が再評価されている。キャンパス駅周辺やアクアテラスは一部施設の補修や更新も必要となっており、引き続き適切な維持管理と、より積極的な利活用を図っていく必要がある。次年度はAIカメラが本格稼働する予定であり、人流データ活用の可能性検討とあわせて、管理活用の推進に取り組むことが期待される。

柏の葉では、イベントや市民活動の蓄積、これらのネットワークがあるが、人口増に伴い大きくなるコミュニティに対して、これを受け止め支援する仕組みが追いついていない現状もある。「柏の葉地域ふるさと協議会」「柏の葉キャンパス駅前まちづくり協議会」や地域活動との連携・支援のあり方について引き続き協議しながら、将来にわたって持続可能な、地域自治の枠組みを創り上げていく必要がある。

NECグリーンロケッツ東葛のホームタウン活動も盛り上げ、柏の葉の文化をつくり育てていく必要がある。

#### 次年度以降の重点課題

- ▶ AIカメラ等による公共空間のセンシングとデータ利活用
- ▶ ふる協・まち協の活動推進と市民活動支援に係るUDCKの役割再確認

# 目標7 質の高い都市空間のデザイン

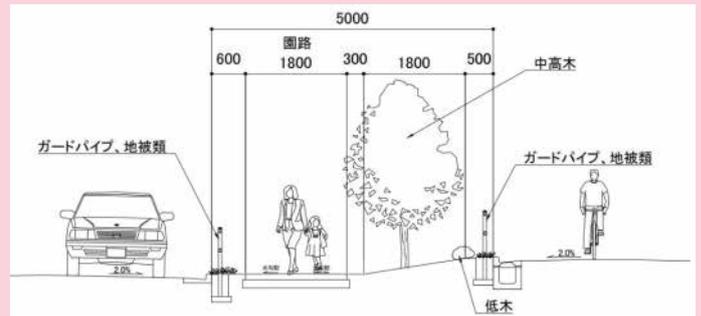
柏の葉キャンパスエリアでは、空間デザイン部会並びに中核地区戦略部会において、公共空間の高質化協議が進められてきている。2018年度にコンペを実施した都市軸道路と国道16号の交差点のシンボルサインは、昨年度躯体が完成していたが、今年度足元まで含めて整備が完了した。

柏たなかでは、川端調整池が2021年3月に竣工し、昨年度末までに公共空間整備は完了している。

柏の葉キャンパスエリアでは、昨年度に引き続き、国道16号北側エリアの「正連寺の並木道」の実施設計にあわせたデザイン協議を行った。柏たなかエリア内では、駅前のマンション計画に関して、事業者協議が行われている。両地区においては、公共サインの整備が進められており、今年度も小拠点サイン（マップ）並びに誘導サイン（矢羽根）の整備に際してデザイン調整を行った。

柏の葉国際キャンパスタウン構想における骨格軸の一つである「学園の道」（千葉大学・東京大学柏IIキャンパス区間）について、まちの回遊動線として強化していくための検討・協議が昨年度まで進められてきたが、今年度はストップしている。

UDCKは景観整備機構として、景観重点地区の建築の事前協議や屋外広告物協議を担っている。1年間で50件近い協議を行っており、地域密着型での景観マネジメントが進められている。



▲正連寺の並木道の整備断面



▲正連寺の並木道 伐採前の巨樹と保管中の丸太

## 1. 景観協議 | UDCK、柏市

2016年度からUDCKが景観整備機構として、景観重点地区の建築の事前協議や屋外広告物協議を担っている。

今年度は協議件数が大幅に増え、UDCKとして計46件の景観協議を行った。種別では、屋外広告物40件、建築物6件という内訳である。KOIL LINKGARAGEとKOIL 16GATEの開業に伴う屋外広告物協議が増えたことも件数が増えた要因である。

区域の内訳はキャンパス駅周辺計19件、2号調整池計27件、対象外0件であった。柏市による柏の葉エリアの景観協議は計25件であり、全体の65%程度の事前協議をUDCKが受けたことになる。

## 2. 公共空間高質化に係るデザイン協議 | 空間デザイン部会

### ■正連寺の並木道

野馬土手の断面形状が残る正連寺集落内の道路については、野間土手の復元（中央緑地帯の盛土）は行わず、両側の道路の高低差を法面でつなぐ形での整備が昨年度決定している。また、歩道は緑地帯の片側に寄せ、法面となる植栽帯をできるだけ余裕をもって設け、植栽計画に自由度を持たせる計画とされている。

今年度、舗装材やガードパイプ、車止めやフットライトなど、緑道に用いられる各要素の仕様を具体的に検討・決定し、整備が進められている。

伐採された大木については、並木道の記憶を残すことを目的に、ベンチなどのストリートファニチャーとしてイノベーションキャンパス地区内などでの活用を企図しており、一部を柏市管理地に保管している。

## 3. イノベーションキャンパス地区の開発進展

### ■133街区 KOIL 16 Gate

第1期のカーディーラー、第2期のビール工場とシンボルサインの整備を経て、第3期工事が11月に終了し、約18店舗が出店する商業施設が完成・順次開業をしている。本格的なものづくりベンチャー等を受け入れるKOIL Factory Proも9月に開業した。本施設の計画にはイノベーションキャンパスのマスタープランに関わったポートランドのZGF設計事務所が関わり、敷地内貫通通路やセットフロントなどの本エリアの特徴となっている賑わい形成のノウハウを取り入れたものになっている。

### ■146街区 KOIL LINK GARAGE

賑わい動線「LINK」に面して325台を収容する集約駐車場を付設する約20店舗からなる商業施設が10月に完成し、11月より駐車場の供用開始、12月より順次店舗が開業している。

両街区とも、ポートランドから日本初進出する飲食店のほかに柏の葉での独立開業を希望する事業者にも対応した小割店舗を設けることにより個性的な業種が集まることになり、柏の葉の多様性が一層進展することが期待できる。



▲KOIL 16 GATE と KOIL LINK GARAGE

#### ■ LINKをつなぐ歩行者軸のデザイン・マネジメント

イノベーション地区に施設立地が進み、今後は同エリアの更なる魅力づくりと賑わい形成が望まれる。KOIL16GATEは駅からは距離があるため、間をつなぐ空間デザインやモビリティの仕組み、回遊を生み出す仕掛けが必要である。

柏の葉 T-SITE やアクアテラスを中心に2つの商業施設間を結び、駅前まで連続する賑わい動線「LINK」および T-SITE 前の公道である「フェスティバルストリート」、また KOIL TERRACE との間の TX 高架下の空間をハード・ソフト両面で充実化していくことが望まれる。今年度の軸線のあり方について、検討を開始しており、次年度具体化していく。

#### 4. 公共サインの追加整備 | 空間デザイン部会

過年度に作成した「公共サイン整備方針」に従い、必要性の高いところから順次公共サインの整備が進められている。今年度は、柏の葉キャンパス、柏たなかエリアに、合計2か所の小拠点サイン（マップ付きの板状サイン）と3箇所の誘導サイン（矢羽根サイン）を設置することとなった。小拠点サイン、矢羽根サインともに、昨年度決定した製品とデザインを基本に、設置位置や表示面の個別検討を行った。



▲整備された小拠点サイン

#### 5. 柏の葉フットパスツアー | 柏観光プロダクションほか

UDCK15周年の記念事業の一つとして、12/4（土）に、市民団体「柏観光プロダクション」の企画に協力する形で、柏の葉エリアのアーバンデザインや景観を解説つきでめぐる「柏の葉フットパスツアー」を開催。本事業は柏市の助成を受けた「2021年度かしわマイ・フットパス推進事業」として開催されたものである。

進化を続ける「柏の葉スマートシティの未来都市の景観美」と、その奥に静かに佇む100年の森「こんぶくろ池公園の自然景観美」のコントラストを体感することをテーマに、UDCK～柏の葉キャンパス駅周辺～アクアテラス周辺～こんぶくろ池自然博物館～県立柏の葉公園～柏の葉一・三丁目を半日をかけて廻った。当日は晴天に恵まれ、18名の一般参加者からの満足度も高かった。



▲柏の葉フットパスツアーの様子（12/4）

#### 6. 柏たなか駅周辺整備 | 柏北部東地区まちづくり検討協議会

「川端調整池」が昨年度末2021年3月に完成したことを受け、駅周辺の公共空間整備は完了しており、柏たなか駅前公園から川端調整池にいたる桜並木は、まだ若木ながら花が連続する風景が見られている。地域住民が増えるなか、人々の交流空間として駅前公園や川端調整池等の積極的な利活用や、これら公共空間や植栽等への参加型の維持管理が重要なテーマである。

今年度、柏たなか駅の東口駅前街区（地区整備方針Aゾーン及びBゾーン）において、マンション建設の動きがあり、地区整備方針の考え方との整合について、柏市を中心に開発事業者との協議がもたれた。法的拘束力のない誘導とならざるを得ないが、Aゾーンでは低層部における通りに面した商業施設整備、街区の貫通通路整備、セットバック部の緑化など、一部配慮もなされている。



▲開発が具体化している柏たなか駅東口駅前街区

#### 今後の課題と展望

昨年度から検討が開始された「学園の道」の整備については、今年度は進捗がなかった。千葉大学柏の葉キャンパス敷地内ではラグビースクールジャパンの立地も決まり、次年度より工事が本格化するなか、学園の道の議論も再開が待たれる。

「正連寺並木道」は、樹木が伐採され緑道としての整備が進められているが、「せせらぎの小径」は昨年より検討がストップしている状況にある。正連寺集落の面影が失われていくなか、望ましい整備のあり方について、こちらでも議論を再開する必要がある。

イノベーションキャンパス地区の商業開発が進展しており、駅から歩行者動線をネットワークする空間デザイン・マネジメントについて、早期の具体化が必要となっている。

柏たなかの駅前では残された大規模街区においてマンション開発が計画、発表され、デザイン協議の正念場を迎えている。事業者との効果的な協議を重ね、地区整備方針に沿った開発誘導を進めることが望まれる。

#### 次年度以降の重点課題

- ▶ 柏の葉キャンパス駅からイノベーションキャンパス地区16GATEをつなぐ「リンク」の空間デザインマネジメント
- ▶ 柏たなかエリアの公共施設の積極的な活用、市民や地域企業の参画促進

# 目標8 イノベーションフィールド都市

柏の葉では、まちづくりの中で先導的あるいは実験的なプロジェクトを進んで受け入れ、イノベーションを生み出すフィールドとなることを目指している。

2018年度に柏市、三井不動産、UDCKをコアメンバーとして新産業創造部会を設置し、民間企業等の新たな製品・サービスの社会実装段階における実証プロジェクトを受け入れるためのプラットフォームとして、「イノベーションフィールド柏の葉」を開設。問い合わせも増えており、新たなプロジェクトも開始されている。

2019年5月には、国土交通省のスマートシティのモデル事業に「柏の葉スマートシティコンソーシアム」の提案が選ばれ、2020年3月に実行計画を策定した。この実行計画にもとづき、モビリティ、エネルギー、パブリックスペース、ウェルネスの4つの分野でプロジェクト群が整理され、これらをつなぐデータ連携プラットフォームも昨年度運用を開始している。また、市民との共創のためのプログラムとして柏の葉リビングラボ「みんなのまちづくりスタジオ」も昨年度スタートしている。今年度は実行計画の短期目標である3年目にあたることから、関連プロジェクトを推進するとともに、今後の活動についての議論を行い、継続する方針を確認した。

## 1. 柏の葉スマートシティプロジェクト

### ■コンソーシアムの運営

国土交通省モデル事業公募をきっかけに2019年に立ち上げた「柏の葉スマートシティコンソーシアム」では、2020年3月に実行計画を策定し、全体会議等を通じて情報共有を図りながら、関連プロジェクトを進めてきた。今年度も「遠隔チェックイン」「予防保全」のプロジェクトが補助採択を受けて推進されている。

実行計画の計画期間が2021年度末で終了することを受け、今後のコンソーシアムのあり方や、取組分野の全体イメージや構成について整理を行った。

### ■プロジェクト連携

今年度はコンソーシアムの全体会議の場で企業からの発表の機会を充実させ、課題を持つ団体と技術を持つ団体とのマッチングを図った。柏市の公園管理に係る課題への解決に向けた産総研との連携など、新たな取り組みの芽が生まれている。プロジェクト始動にあたっては、各団体間の利害調整、事業費やマンパワーの確保等が課題であるが、引き続き事務局としてフォローを行う。

### ■メールマガジンの配信

2021年8月に第1号を配信し、現在（2022年3月）までに計4回を配信した。



▲メールマガジンの例

### ■オンラインフォーラム

2022/1/21（金）にオンラインフォーラムを開催。UDCK15周年記念も兼ね、これまでのまちづくりを振り返るとともに、新産業創造の取組からスマートシティの新たな展開可能性を模索することを試みた。事前登録671名、同時視聴435名を得た。

### ■スマートシティガイドツアー

UDCK15周年記念イベントの一つとして、2021/12/3（金）・12/4（土）の二日、地域住民を対象としたスマートシティ体験ツアーを実施した。スマートシティとして国内外に名を知られている柏の葉であるが、まちに暮らす当事者である地域住民への周知の不足や、現時点で体験できない取組みも多いといった課題を受け、企画・実施したものである。体験ツアーは、参加された方々からも好評を頂いた。より多くの施設・取組についての体験を可能にするるとともに、定期開催に向けて検討を行う。



▲オンラインフォーラムチラシ（左）とガイドツアー告知パンナー（右）

## 2. 柏の葉データプラットフォーム | UDCKTM

「柏の葉スマートシティ実行計画」に定める3つの戦略の一つであり、「データ駆動型」のまちづくりに係る根幹でもあるデータプラットフォームについては、昨年度、三井不動産と日本ユニシスが、パーソナルデータが本人の意思に基づき、安心・安全に流通するプラットフォーム「Dot to Dot」を共同開発し、柏の葉において提供を開始している。また同時に、パーソナルデータを融通する際の共通ID認証である「スマートライフパス」も運用を開始している。

今年度は、「スマートライフパス」の会員拡大に向けて、各種キャンペーンやイベント（Fitbit キャンペーンやクリスマス・お年玉キャンペーン、お友達紹介キャンペーンなど）が開催された。

「スマートライフパス」の開始と同時に開設された登録・相談窓口の「IT コンシェルジュカウンター」では、累計対応件数が1,392名となった。スマートライフパスのみならず、スマートフォンの使い方から対応していることもあり、高齢者が多く来訪され、スマートライフパスへの登録数も堅調である。まちの機能として欠かせないものになりつつある。（60代以上の登録割合が全体の23%程度）データ活用に係る取り組みとして、東京大学柴崎亮介教授による「パーソナルデータを楽しく活用する」イベントを2021/11/20（土）に実施。適切にデータが利活用される社会の構築を目指し、個人データの安全な保管や利活用に係る知識を学ぶ機会を引き続き設けていく。

今後は駅からの2km圏内にとどまらず、特典が享受できる登録者を増やしていく予定である。



▲IT コンシェルジュカウンター (左) / パーソナルデータ活用イベント (11/20)

### 3. 柏の葉リビングラボ "みんなのまちづくりスタジオ"

柏の葉のリビングラボプログラムとして昨年度スタートした「みんなのまちづくりスタジオ (みんなのまちづくりスタジオ (みんなのまちづくりスタジオ (みんなのまちづくりスタジオ))」は第一期プログラムを継続した (2020年12月～2021年6月)。「まちの声をあつめて、みえるようにする仕組みをつくる」をテーマに20名の生活者等の方々が参加。6/26 (土) に KOIL スタジオにて最終報告会を実施し、公・民・学メンバーで講評を行った。8月には1カ月間 UDCK ラウンジにて成果物展示を実施。第一期の最終報告案については UDCK タウンマネジメントにて実装準備中である。

第一期の経験をもとに、みんなの方針、共創プロセスを整理し、第二期以降の計画を検討中である。コロナの影響でスタートが遅れているが、2022年度には「AIカメラ」「フレイル予防AI」を実施予定あるほか、その他企業等との取り組みも検討中である。

まちのデザインHUB プロジェクト		夢をかなえる街	共育チーム	出会いチーム	「発見」チーム
ターゲット	住民	一歩踏み出したい人 挑戦をしたい人	生活者 (企業も含む)	新住民 柏の葉に興味のある人 柏の葉の情報がない人	住民
アウトプット	定期的なイベント	スラック	HP & Twitter ノート	Instagram 掲示板	友達の輪 (googleドキュメント)

色々な方々をターゲットとしているので市販によって街とのかかわり方を色々提案できるサイトとイベントに統合し、UDCKTMのHPでwebsiteの機能として実装していく

プロジェクトの様子

▲みんなのまちづくりスタジオ第一期プログラムの成果まとめ

### 4. " 新技術を楽しむ " 体験型企画の支援

#### ■ Code for Kashiwa 「スマホでまちづくり」

オープンデータ活用の第一歩として、Code for Kashiwa と共催でイベント「スマホでまちづくり」を11/28 (日) に開催した。情報を集めると何がわかるようになるのか、どのように便利になるのかを体験するマッピングイベントと、「データを集めるアプリをプログラミング『なし』で作る」アプリ制作ワークショップを実施した。

#### ■ AR 体験 「かしわのはアイデアキャンバスコンテスト」

日建設計総合研究所が開発する AR (拡張現実) アプリ「ARX (AR Collaborator)」を活用した、まちづくり×AR イベントを開催。11/14 (日) と 11/27 (土) の2回のイベントを通じて、柏の葉にあって楽しい! 遊びたいと思うアイデアを描いて、そのアイデアをARで体験した。

### 5. イノベーションフィールド柏の葉 | UDCK

実証プロジェクトの受け入れを一括して行うプラットフォームである、「イノベーションフィールド柏の葉」では、本年も多くの民間企業より実証プロジェクトの応募があり、そのうちいくつかについては街なかでの実証が実施された。以下に示すものの他にも、次年度以降の実証実施に向けて協議を継続しているものも複数ある。

■ 「政府の認可を受けた初の公道での電動キックボード走行」 (EXx) : 昨年度の実証実験をステップとして、今年度は有料によるサービス提供が行われ、柏の葉におけるビジネスモデルの検証が実施された。(目標4参照)

■ 「IoTを駆使した安心・安全なオフィス空間を実現」 (センスウェイ) : KOIL におけるコワーキングスペースや会議室等の換気状況、在席状況、トイレの空き状況の可視化について、WEBアプリケーション開発を行い、KOIL 内モニターやスマホ上でも確認できるようになった。

■ 「熟成ホップの『脳健康』効果に関する実証研究」 (麒麟ホールディングス、三井不動産) : ビールやノンアルコールビールに含まれる苦味成分である「熟成ホップ」の気分状態や認知機能への効果について、一般参加者の協力の元、検証が行われた。「あ・し・た」における継続的展示など、柏の葉における定着化に向けたステップへ進んでいる。

■ 「遠隔チェックイン」サービス (nemuli、ほか) : 過年度実施した「病院外から遠隔で再来受付を可能にする『遠隔チェックイン』サービス」を拡張し、2022年2月からは「病院での待ち時間を街で過ごす」ための仕組みを付加して、実証プロジェクトを実施した。柏の葉 IoT ビジネス共創ラボでの議論から発展し、「イノベーションフィールド柏の葉」での国立がん研究センター東病院との連携を経て進められているものである。

### 今後の課題と展望

スマートシティプロジェクトは、実行計画の当初3か年が終了したが、今後もスマートシティコンソーシアムの活動を継続する方針を確認した。個々のプロジェクトの推進はもとより、参加組織間での連携の動きも出てきている。引き続き、データプラットフォームと「みんなのまちづくり」を活用した新規プロジェクトの創出・支援や、プロジェクト連携を進めることが重要なテーマとなる。スマートライフパスの会員数は増えている一方で、住民の主体的参加・共創はまだ少ない。「みんなのまちづくり」をはじめ、企業や地域団体とも連携した参加・共創プログラムを強化していくことも望まれる。

スマートシティプロジェクトを含め、イノベーションフィールドとしての柏の葉の環境はここ数年で大きく拡充した。目標2の新産業創造・企業誘致の視点ならびに、目標6のまちの持続的なマネジメントの視点を確認しながら、様々な実証プロジェクトをコーディネートしていくことが重要である。

#### 次年度以降の重点課題

- ▶ 柏の葉のフィールドやデータ基盤を活用した、企業連携、分野横断型プロジェクトの展開・支援
- ▶ 住民参加型のイノベーション (リビングラボ) の促進

Kashiwanoha International Campus Town Initiative  
**柏の葉国際キャンパスタウン構想**

フォローアップ調査 2021【概要版】

2022年 3月



KASHIWA-NO-HA

柏の葉国際キャンパスタウン構想委員会  
(千葉県+柏市+千葉大学+東京大学+三井不動産株式会社)